

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年5月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1173100718
法人名	有限会社紫籐
事業所名	グループホーム「我がまゝ荘」
所在地	〒360-0841 埼玉県熊谷市新堀8-7 (電話) 048-530-6033

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65
訪問調査日	平成20年4月28日

【情報提供票より】(平成20年4月8日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	34 人	常勤 28人, 非常勤 6人, 常勤換算 29人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円 ~ 40,000円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1月当たり40,000円			

### (4) 利用者の概要(4月28日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名
要介護3	6 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 74 歳	最高 91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	熊谷総合病院、西熊谷病院、原田歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の一角に建てられた木造建築の当ホームは、周辺の環境の中に溶け込んでいる。隣接の畑には草花がたくさん植えられ、四季折々の花が咲いている。この花が玄関や居間、廊下などに飾られ、香りや色彩などを楽しむことができる。建物には木材がふんだんに使われ、木の香とぬくもりが感じられる。畑で取れた季節の野菜も使ったメニューも取り入れた食事や、毎日の入浴、排泄時のさりげない誘導など毎日の支援が行われている。地域の行事にも参加したり、併設のデイサービスの利用者と一緒に外出して小規模施設ならではのサービスを提供している。職員に看護師を配置し、利用者の健康管理や医療機関との連携をはかったり、職員の資質向上のための勉強会や研修への参加など、管理者と職員が一丸となってよいホーム作りを目指している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前々回の評価結果を元に改善計画を立て、多くの課題の改善や向上を図っている。前回の評価結果は、誰もが見られるよう玄関に提示してある。また、評価結果を受けて全職員からレポートを出し合って検討している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回と同様に、全職員からのレポートを元に複数のスタッフで自己評価を行っている。また、今回の外部評価結果を受けて全職員で検討する予定になっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営会議について開催要項は作られているが開催はされていない。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会が結成され定期的な会合も開かれており、毎月我がまゝ荘新聞「我がまゝ」を発行しているほか、日常的にも利用者に関して細かく家族に報告したり相談したりしている。家族会では、ホームへの希望なども出されている。また、職員提案制度があり、いつでも運営に対する意見が出せるようになっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のごみゼロ運動や敬老会への参加などが行われている。また、菜園づくりや収穫などに近所の方たちの協力があったり、芋ほり大会や餅つき大会には近隣の方や子どもたちの参加があり、利用者ひとときを楽しんでいる。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「我（われ）がまま」で生活でき、わがままも言える。そんな思いを中心に職員で理念として練り上げた。この理念を職員、利用者、家族にも見えるよう各ユニットに掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新任職員には必ず説明している。また、「自由にのんびり」「できることを一緒に」「わがままに自分らしく」「土に親しみ育てる喜び、食する喜びを感じ」「外に出て心身の健康づくりを」という理念は、職員会議などで具体化され生活の場に提供されている。また、処遇の検討の際にもこの理念に沿った処遇になっているか点検している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ごみゼロ運動や敬老会に参加するとともに、ホームの畑で育った作物の収穫祭や餅つき大会などには地域の方々にも参加していただいている。子どもたちの参加にはホームの利用者も喜んでいる。また、近所で花作りをしている方からのプレゼントがよくあり、ホーム内はいつも花がいっぱいである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価への取り組みにあたって、管理者と共に複数のスタッフで内容を検討しコメントを記入した。評価結果は、職員会議等で共有していく計画がある。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	要綱が作成され、構成員も決まっているが運営推進会議はまだ開かれていない。		地域での理解を深め、協働し、認知症に対する理解や、利用者の生活のしやすさが上げられることにつなげられるように運営推進会議を開催し、関係機関との連携の強化、ホームと地域を結ぶパイプが太くなることを期待したい。

埼玉県 グループホーム「我がまゝ荘」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村も参加する広域的なグループホームの協議会に出席し、情報交換や研修などを実施しているが、ホームと市町村担当者との個別・具体的な連携は図られていない状況である。		事業を行っていく上で、市町村の理解や支援は不可欠であるため、課題解決を図っていくためにも、市担当者との協働の関係を築いていくことが望まれる。
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族会が結成されている。また、毎月我がまゝ荘新聞「我がまゝ」を発行しているほか、一人ひとりの近況を伝える報告を送っている。個人のアルバムも作成し、各居室に保管し、いつでも家族が見られるようにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が作られており、その中でホームへの希望なども出される。また、職員提案制度があり、いつでも運営に対する意見が出せるようになっている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤職員の退職はほとんどないため、現在のところ異動による利用者のダメージとなるようなことは発生していない。今後、そのような事由の発生時には、利用者への配慮について十分検討し対応するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議には、全職員の持ち回りで介護関係の書物などから研究報告を行っている。また、ホーム便りの最終ページでは、毎月研究成果を広く周知している。外部研修にも積極的に参加できる仕組みができており、スウェーデンで開発された認知症のケアの手法であるタクティールケアの実践（資格取得を含む）と普及のための活動にも取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	埼玉県北部地域認知症懇話会で県北部の同業者との情報交換や研修などを行っている。ここでの実践報告は職員の資質向上になっている。タクティールケアの手法（手で触れる事で痛みや不安を和らげる手法）についての発表と普及の活動も懇話会を通して広がっていている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所相談の段階から、できる限り説明や質問の機会を作っている。また、見学や体験利用を通じて、本人にも納得の上で入所を決定していただくよう配慮している。居室もそれぞれが馴染みの家具を用意したり、ホームで作成した作品や写真などが飾られ、その人らしい雰囲気がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や行事など職員と一緒に経験しながら日々過ごしている。また、昔の出来事など、職員が利用者から教えていただくこともあり、そうした機会を大切にしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にこれまでの生活歴を聞き、毎日の観察の中から、利用者一人ひとりの状況や変化を個人ファイルに記録している。また、「本人の希望」の調査をし、希望の実行に向けた活動も進めている。日々の生活の中でも特に日課は定めず、食事時間も本人の気分や体調によって柔軟に対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者を中心に本人の状況を主任、看護師、施設長の綿密なアセスメントにより話し合い、介護計画を作成している。また、作成に当たり家族の希望も聞いてケアプランに反映させている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新規入所の際は暫定プランを作成し、日々の観察や変化の中で修正しながら1ヶ月、3ヶ月の見直しをしている。特に変化がない場合は見直し期間を1年としているが、必要に応じて見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームに併設されたデイサービスは、家庭的な雰囲気をもって、利用者の参加も自由である。ボランティアの訪問時はデイサービス利用者とホーム利用者が共に楽しむことも多い。公園や水族館等への外出も合同するなど、状況に応じた支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院はできるだけ家族に対応をお願いしているが、困難な家族も多いため、医療機関に依頼し、往診での対応も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームには看護師が配置され、緊急時の判断や医師との連携の要になっている。現状では、食事が経口摂取できれば対応している。終末期ケアは希望があれば対応したいと考えており、必要に応じて往診できる医師の確保を検討している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の対応は十分配慮がされ、排泄や食事場面での声かけにも、自尊心を損なわないようにさりげない配慮が感じられる。また、各個室は中から施錠できるようになっていてプライバシーが完全に確保できるようになっている。しかし、リビングに面した居室は扉を開けると室内が隅々まで見えてしまっている。		防災上の問題もあり、困難ではあるが、さりげない目隠しを取り入れるなど工夫して、利用者のプライバシーへの配慮が期待される。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは利用者の興味やできることを支援するため様々な取り組みをしている。今年度から本人の希望の聞き取りと実現へ向けた活動も展開している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は福祉食材を購入しているが、時折外食やホームの菜園で収穫した野菜を使った料理などもとり入れ、変化に富んだメニューを提供している。食事づくりやテーブル拭き、片付けなどに利用者にも参加していただいている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に毎日実施している。職員の見守りや介助なしで入浴できる方には、午前中にゆっくりと一人で入浴していただいている。介助の必要な方でも体調や気分に応じて入浴するかどうか伺い順番を決めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の楽しみごとをいろいろ用意している。日中の活動は12のクラブ活動、畑作り、各種リハビリメニュー、そのほか季節ごとの行事など盛りだくさん用意され、各々が得意なものや興味のあることに取り組めるよう工夫している。また、フロアごとにある月1回の外食は楽しみの一つである。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は散歩に出かけている。公園や近隣の水族館、博物館などの文化施設にもよく出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は施錠しておらず、利用者も自由に入りができる。出入りの確認のため玄関と、アプローチの2ヶ所に音を変えたチャイムがある。職員の出入りも多いため、職員が出入りするときは別に鈴を鳴らし、知らせている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常用のすべり台が設置され、防災訓練にも使用されている。昨年は消防署の協力を得て防災訓練を行った。また、緊急時の対応として職員が救急法の研修に順次参加した。伝達研修も行ったが、順次研修受講も計画している。災害時の近隣との協力関係も重要なこととして検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	福祉メニューから食材を購入している。管理栄養士により栄養バランスが考えられ、調理も個人に合わせてられている。また、食事量や水分量も記録され、水分量が少ない人や偏食のある人には個別に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のくつろぐ居間はゆったりとしている。また、壁の厚みを利用した飾り棚には、季節の花や作品などがさりげなく飾られ心を和ませてくれている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者がゆっくりくつろげる場所になるよう、家で使っていた家具などが用意されている。また、カレンダーや鉢物、書や手芸の作品、人形などが飾られ、その人らしい居室づくりがされている。		